



湘水都市 さがみはら

[相模の大凧]

大凧の歴史は、古くは、天保年間(1830年頃)からといわれ、本格的に大凧となったのは、明治中期からです。

当初は、個人的に子供の誕生を祝って揚げられていましたが、次第に豊作祈願、さらに若者の意志や希望、国家的な意義を表徴するものなど、個人的なものから、地域的なものへと移り、戦前戦後をとおして、新磯青年団が主催して、毎年新戸、勝坂、下磯部、上磯部、の4会場で行われておりましたが、年とともに移り変わり、昭和44年からは、相模原市の5大観光行事に選定され、前記の4地区が毎年交代で実行委員会を組織し、会場は持ち回りで開催してきました。

しかし、社会情勢の変化などから技術の継承や会場の確保などが危惧されるようになり、現在では「相模の大凧まつり実行委員会」によって開催されております。

大凧の題字は、市民から募集して選定し、元字は、相模原市長が直筆し、それを元に大凧文字に書き直します。大凧には、その年の題字が書かれています。昭和39年は東京オリンピックを祝って「祝輪」、平成4年は新磯小学校百周年を記念して「新磯」、平成5年は皇太子殿下のご成婚を祝って「慶祝」、平成13年は新世紀にちなんで「紀風」、平成19年は皇室の親王誕生のお祝いと合併した相模原市の繁栄を願って「悠風」など、その時々々の世相を反映したものとなっております。平成25年は、さがみはらの素晴らしい四季折々の自然、文化、祭りなどの多彩な魅力によって、益々多彩に輝き繁栄することを願って「彩風」、本年は、政令指定都市となり足元を固めた4年間、相模原市がこれから、更なる上昇期を迎えるように「駿」の字に願いを託すとともに、干支にあやかり、馬のように勢いよく上向き気運に乗った明るい世の中を願って「駿風」(しゅんふう)と決めました。

相模の大凧は、昭和52年には、「かながわの民俗芸能50選」に、昭和57年には、「かながわのまつり50選」に選定されています。平成3年には、国の文化財新指定「記録作成等の措置を構すべき無形の民俗文化財」の中に「関東の大凧揚げ習俗」が選定されました。もちろんその中には、相模の大凧が含まれていることはいまでもありません。また相模の大凧文化保存会では、伝統文化の保存・継承が認められ、平成16年11月に神奈川県文化賞を受賞しました。そして平成22年4月1日には相模原市指定無形民俗文化財に指定されました。

◆ 凧の大きさ

新戸8間、勝坂5.5間、下磯部6間、上磯部6間

◆ 大凧の概要(8間)

大きさ 14.5m(8間)四方	凧揚げに必要な人員
重さ 約950kg	80~100人
網の長さ 約200m	凧揚げに必要な風速
網の太さ 直径3~4cm	10~15m



相模の大凧まつり 日本一

2014年

5/4・5月

AM10:00-PM4:00

会場 ●新戸会場(新戸スポーツ広場) ●勝坂会場(新戸スポーツ広場)
●下磯部会場(磯部頭首工下流) ●上磯部会場(三段の滝下広場)

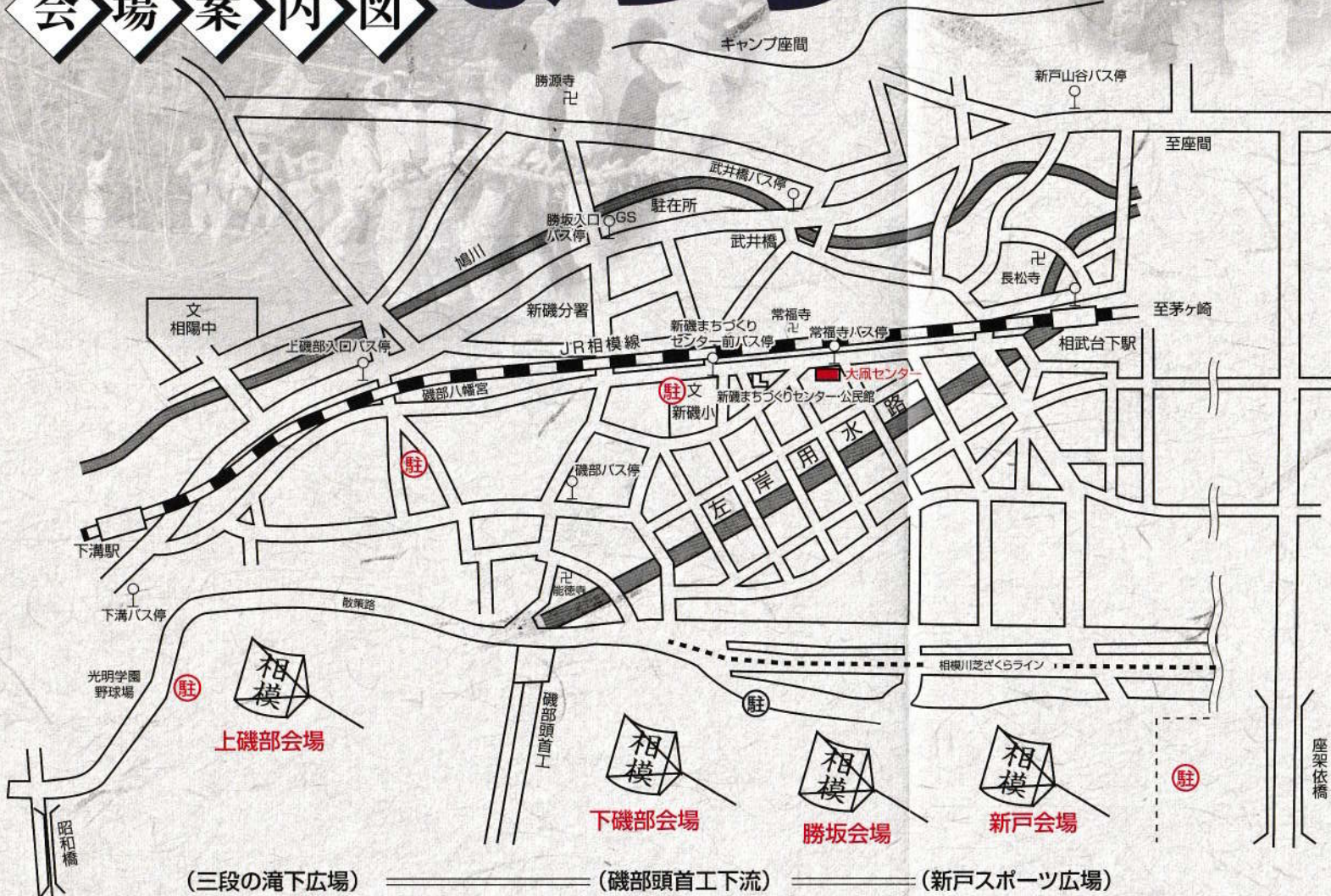
巡回 相武台下駅>大凧センター>上磯部会場>巡回バスは無料です。
バス 下磯部会場>新戸・勝坂会場>相武台下駅 運行時間 午前10:00~午後4:00まで

湘水都市 さがみはら
相模の大凧

主催/相模の大凧まつり実行委員会
後援/相模原市、(一社)相模原市観光協会、神奈川県、(公社)神奈川県観光協会、相模原商工会議所、(公社)相模原法人会、(公財)相模原市まち・みどり公社、新磯地区自治会連合会、新磯観光協会、東日本旅客鉄道(株)横浜支社、小田急電鉄(株)
協賛/相模原市印刷広告協同組合、(有)誠観光

日本一 相模の大嵐 まつり

会場案内図



おもな交通機関

新戸・勝坂会場 (新戸スポーツ広場)
 小田急線 相武台前駅下車
 神奈中バス 相武台下駅下車徒歩15分
 JR相模線 相武台下駅下車徒歩15分

下磯部会場 (磯部頭首工下流)
 小田急線 相武台前駅下車
 神奈中バス(磯部行) 新磯まちづくりセンター前下車徒歩10分
 小田急線 相武台前駅下車
 神奈中バス(原当麻行) 勝坂入口下車徒歩15分

上磯部会場 (三段の滝下広場)
 JR相模線 下溝駅下車徒歩5分
 神奈中バス 下溝下車徒歩5分

各会場間は徒歩および巡回バスにて移動できます。
 (巡回バスは無料です)

巡回バス 相武台下駅 ▶ 大嵐センター ▶
 上磯部会場 ▶ 下磯部会場 ▶ 新戸・勝坂会場
 ▶ 相武台下駅

各駐車場が狭いので出来るだけ公共交通機関をご利用されますようご協力ください。

